

二・四 桜木東校区

わたしたちのふるさと桜木東校区は、託麻台地に連なり、藩政時代から形成されていた沼山津地区の畑作地帯であった。

昭和三十年代後半までは阿蘇の山脈と金峰山がどこからでも眺望できる広漠たる畑地が東に広がっていた。

熊本市の東部発展に伴い漸次住宅化都市化が進み、昭和四十六年（一九七一）桜木小学校が秋津小学校から分離独立して開校。

更に平成十年（一九九八）に桜木小学校から分離独立して桜木東小学校が開校。最も新しい校区である。

校区は、「桜木四丁目・五丁目・六丁目・花立五丁目・六丁目」の全域」と「桜木三丁目・花立三丁目・佐土原二丁目」の一部を範囲とし、世帯数二千八戸・人口五千六百二十人（平成十四年二月一日現在）である。

畑地であったため「花立往還・戸島道や小峰線」などが通っていた以外、歴史遺産は見られない。

〔 史 跡 〕

1 追分石 (マップ番号 79)

所在地 熊本市桜木四丁目一九番

沼山津神社より北東約五百メートル。益城町広崎との境界に「追分け」という地名のある処がある。

地元の人々が花立往還と呼んでいる凹道の木山往還と佐土原からの凹道（木山町道）との交差点に、縦一〇九センチ 幅三五センチ の自然石に「右すなとり、左ぬやま津」という

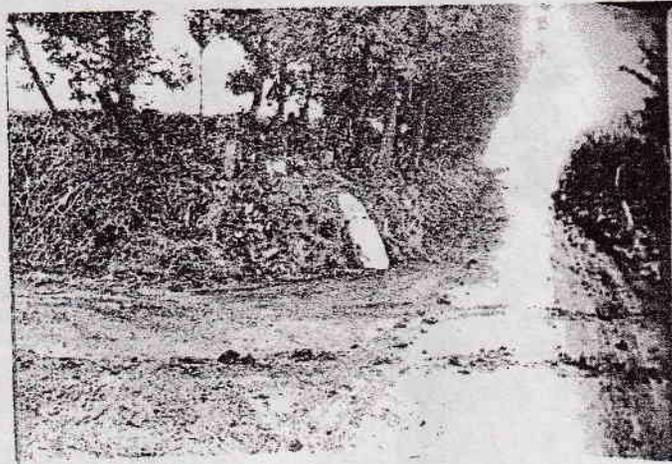


写真 3 ・ 7 2 花立往還と追分石

(出所 熊本県歴史の道調査)



写真 3・73 花立往還・追分石

追分石がある

熊本藩は明和七年（一七七〇）往還筋に石または木で標示を建てさせているので、この追分石もこの頃建てられたものと思われる。

台地を堀割して造った凹道が、二メートル近くの高土手になって進んでいる。加藤清正の深い軍事的配慮があったと言われている。

「旅人、常に御府中の形春を不見為の御供え」「若し敵、来たらん時、両方の高岸を鍬を以て切落さば、人馬の通路断絶す」と薩公道業に記してある

次の十字路には横手の五郎が運んだと伝える「猫伏石」がある。

（秋津小百周年記念誌 秋津の歴史）

2 花立往還

（木山往還―熊本往還）

（マップ番号 80）

地元の人々が「花立往還又は熊本往還」と呼んでいた木山往還の沼山津懸かりは、「字花立と字北花立」・「字桜木と字杉本」の界を通っていた。

郡村誌では、沼山津村・健軍村を通る木山往還について沼山津村「三等県道二属ス。

村の乾（北西）託麻郡健軍村界ヨリ東、廣崎村界ニ至ル。長六丁十八間、幅二間。馬踏・道敷ノ別ナシ」

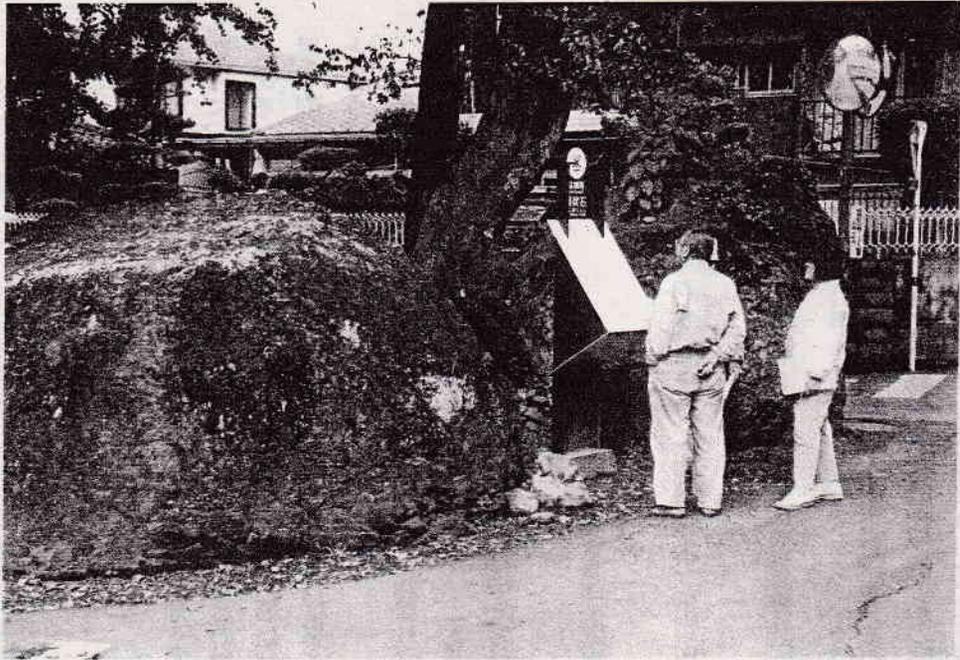
健軍村 「三等県道ニ属ス。村の西、神水村界ヨリ良（北東）、上益城郡沼山津村界ニ至ル。長二十八丁四十三間、幅一間三尺乃至二間。内七丁十四間ハ健軍神社前八丁馬場ト称ス。馬踏四間、道敷十二間、松・杉並木アリ。馬場央ヨリ南ハ秋田村ノ支道アリ。」と記している。

「木山往還」のことを地元では、熊本町向けは「熊本往還」花立懸かりを「花立往還」と呼んでいた。

花立往還は「花立三丁目と五丁目」・「花立四丁目と六丁目」・「桜木三丁目と五丁目」の境界となっている道路がかつての花立往還である。

佐土原からの凹道は、国府から通じており、一等里道に属し、木山町道（きやま まちみち）と呼ばれていた。

（語りべ学習会）



石伏猫 4 7 ・ 3 真 写

御船口から分岐して東南の方向へ進んでゆく街道を、木山往還と呼んでいる。追分は御船口の地藏堂で、御船往還が南へ進むのに対して木山往還は東に向かって通じている。

堂内の地藏光背に、「左こしのを」と刻まれているその「こしのを」は、昔の木山町のことである。

迎町から南の琴平・本庄の境をなしている道路を東進して、南熊本駅通りを横断するとJA会館の北側に出る。これをさらに東進すると、右手に辛崎神社があり、このあたりから東南に方向をかえて二の井手を渡る。

二の井手の手前に春竹説教所がある。(その一画に道に向かって放牛の第六十九体目の地藏が立っている)

二の井手を渡った道は、昔の水田地帯の中を右折、左折して一の井手を渡り、白山小学校の校門に達する。旧往還は小学校の校庭を東に突切り、豊肥線の踏切りを渡って松楠塾の前に出で、堀の内団地を抜け、国府七曲りを経て砂取四つ角近くに出る。

ここから水前寺川を渡り、総合体育館の西側を廻って電車通りを横断すると八丁馬場へ入る。

馬場を東に突き当たると神域である。正面大鳥居の前から南へ下がって真光寺の門前を通り、庄口川を渡ってだから登りの道を進むと自衛隊前の大通りになる。

ここで昔の道がなくなるので、陸運事務所前を東に一直線に進み、東町団地の端で南へ下がると再び旧道に会う。

暫く進むと道は昔懐かしい凹道となり、佐土原からの凹道との交差点には、「右すなとり左ぬやま津」という道標石が残っている。

次の十字路では横手五郎が運んだと伝える猫伏石を眺め、古閑・馬水・安永を通って終点の木山に到達する。熊本より三里の往還である。

(熊本県歴史の道調査)